



まなべ ようこ  
真鍋陽子議員

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている地域経済について問う

議員 ①県時短要請協力金の対象外ではあるが、大きな損失を受けている飲食店に対し、何らかの補助を市独自で行うことはできるか。

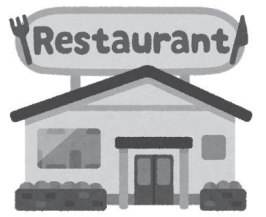
②災害時用に備蓄している生理用品やおむつなどを、社会福祉協議会等を通じて困窮家庭に配布することはできるか。

産業部長 ①厳しい状況にある事業者に対し、市独自の支援策を検討してまいりたい。

危機管理部長 ②今後、災害用備蓄の生理用品等に使用期限の目安を設け、達したものは社会福祉協議会等に持ち込みたいと考える。

移住・定住・交流・関係人口施策について問う

議員 移住・定住政策、関係人口



増加に対するビジョンをたずねる。

市長 教育三改革、インフラ整備、産業振興と観光、子育て・福祉の充実の4つの柱で総合力を上げること社会動態ゼロにつなげていくよう全力で取り組んでまいります。

議員 3月議会でもサテライトオフィス、お試し住宅、保育所などにおける広域入所の規制緩和、ふるさと納税による関係人口増に触れた。地域通貨などは、地方から東京や大阪などの大都市、そして大企業に少しでも資金を流出させないための地域における有力な経済循環ツールであり、定住促進効果も見込まれる。ぜひ様々な政策を検討し、取り組んでほしい。

※他に「市制70周年記念事業」、「特別支援教育推進委員会」、「子どもの視力低下」、「成年年齢引き下げ」などについて質問しました。



くりお のりこ  
栗尾典子議員

シティプロモーションについて問う

議員 何を目指し、何をやっているのか。シティプロモーションの戦略をたずねる。

市長 関係人口の増加、社会動態の改善を目指す。実施にあたり委託業者には、我々では気づかない笠岡市の魅力を引き出してもらおう。30代の女性をメインターゲットにフリーマガジンの発刊やウェブでの発信をしている。

議員 委託業者が笠岡市のイメージをつくり発信するという入札仕様書となっている。市が、笠岡がどんなまちなのかを明確に示す必要がある。その上で戦略プランを作ってやっていただきたい。

政策部長 定住促進本部会議でしっかりと諮っていききたい。



市民への情報伝達について問う

議員 新型コロナウイルスワクチン接種予約で混乱がみられた。わかっていた情報をなぜ公開しなかったのか。

健康福祉部長 内部が混乱し、伝えるべきことが伝えられなかった。

議員 安心して暮らせるまちをつくるには、市民との信頼関係が大切である。ワクチン接種等の情報の発信の判断はどこがするのか。

副市長 基本的な部分は本部会議で、個々は各担当で決定する。  
議員 誰が責任を取るのか。統制がとれていないと考える。

※質問に対する明瞭な回答が無く、議長から執行部に対し注意する場面がありました。